



# 子どもの権利に関する情報紙

39号

## Titti (ちっちゃいけどちっちゃくない)

子どもは、それぞれが一人の人間で、自分らしく生きる権利、人として尊重される権利があります。それは、子どもおとなも同じこと。「Titti (ちっちゃいけどちっちゃくない)」は、そんな思いを込めて作っています。



11月20日はかわさき子どもの権利の日

しせい 市制100周年  
しゅうねん きねんとくしゅう  
記念特集

## 『子どもの権利×うんこドリル』が、いろいろなところで大活躍!

昨年完成した「子どもの権利×うんこドリル」は、夏に開催したお披露目会を中心に、今までに約2万部配布し、保育園などの子どもに関わる施設や団体等の研修や、子どもたちが日常的に利用する地域のいろいろな場所でもご活用いただいています。

今回は、寺子屋、わくわくプラザ・こども文化センターで行ったワークショップの様子をご紹介します。



「子どもの権利」が大事だとわかってよかった。

子母口小学校  
わくわくプラザ



大切な権利がたくさんあることが知れた!

末長小学校わくわくプラザ



「権利」はみんなにあることが分かった。

梶ヶ谷こども文化センター



他の人の意見がたくさん聞いたのがよかった。

寺子屋すげんちゅ



©Y.F/BKS

### ファシリテーターの感想

ワークショップのはじめは、「子どもの権利」という言葉に硬い表情をしていた子どもたちでしたが、うんこドリルの面白さで楽しみながら「子どもの権利」について学ぶことができたと思います。

特に、「自分を豊かにし、カづけられる権利」について考える場面で、わくわくプラザやこども文化センターでやってみたいことについて聞いたところ、今までやったことがない遊びの提案や、いつも楽しみにしている行事を増やしてほしいなどの意見が次々に出て、「子どもの権利」が、日常生活のなかで自分自身に関わることだと感じてくれたのだと感じました。

子どもだけでなく、おとなにも「子どもの権利」について伝えたいと思いました。  
こども文化センターなどでのファシリテーター 橘地区子ども会 森村さん(19歳)

「子どもの権利×うんこドリル」を見たときは、これで学びにつながるのかと感じていたけど、子どもたちが楽しく「子どもの権利」に触れることができていて、学びきっかけになったと思います。「子どもの権利」について、子どもおとなももっと知るといいと思いました。

寺子屋すげんちゅ 寺子屋先生



うんこドリルは、市役所本庁舎15階で配布しています。また、うんこドリルを活用したワークショップのマニュアルを公開していますので、ぜひ活用してください。(講師派遣も承ります)



市ホームページ



申込フォーム



## 子どもアドボカシーってなあに?

こども基本法第3条や、子どもの権利条約第12条、川崎市子どもの権利に関する条例第15条では、子どもの意見表明について保障する条文があり、子どもの権利を守るうえで、子どもの意見を尊重することが大切にされるという考え方が示されています。

しかし、子どもが自分で、ちゃんと言葉でまとめられない、気持ちが整理できない、うまく説明できないこともあるでしょう。そのようなとき、その子どもの声に耳を傾け支援することを「子どもアドボカシー」といいます。

子どもアドボカシーの対象は、社会的養護の子どもが中心ということではなく、すべての子どもが意見を言いやすくなるように、おとなはその声に寄り添うことが大切です。

そのため、専門的な知識を持った専門アドボケイト(権利の代弁・擁護)だけでなく、一人ひとりが子どもアドボカシーについて考え、理解することが大切です。

社会を構成するパートナーである子どもに寄り添い、子どもの考えを受け止め、一人の人間として対話できるよう、どんな小さな子どもでも声をあげやすく、その声を尊重できる環境が大切です。

例えば、乳幼児期の子どもは言葉で表現することがまだ上手にできませんが、保育園や幼稚園、家庭や地域で乳幼児と接するとき、できる限り子どもに寄り添おうとすることから始めたいですね。



# 『令和6年度かわさき子どもの権利の日のつどい』を 開催しました!



©Y.F/BKS

川崎市子どもの権利に関する条例に定められている“かわさき子どもの権利の日（11月20日）”にちなみ、たくさんの方々から子どもの権利について知ってもらうため、令和6年11月30日（土）に中原市民館において「かわさき子どもの権利の日のつどい」を開催しました。

当日は、午前中から多くの方々がお越しの上、各ブース内は大変賑わいを見せたとともに、一部企画では行列ができるなど、合計約400名の方々の御来場により、活気に満ちたイベントとなりました。

ホール企画では、市制100周年事業として作成した、子どもの権利について解説するうんこドリルのステージショーを実施しました。ステージショーでは、うんこ先生が登場し、司会者によるマイクパフォーマンスを行いながら、来場者と一緒に子どもの権利に関する問題にチャレンジし、ホール全体で楽しみながら子どもの権利への理解が深まるイベントとなりました。

この他、ホール内では、アニメーション作品を上映する短編映画上映会も実施し、多くの子どもたちや親子連れの方々で賑わいました。

また、会場内の諸室では、出張!ミニ子ども夢パーク、子どもの権利条約に関する書籍の展示やかるた体験、CAPプログラムワークショップ、不登校をテーマとした講演会、うんこドリルを活用したワークショップなど、多彩な企画を実施し、親子で楽しむ姿や熱心に話を聞く来場者の姿など、様々な様子が見受けられました。



子どもの権利×うんこドリル  
ステージショーの様子



出張!ミニ子ども夢パークの様子



「うんこドリルを学ぼう!遊ぼう!使おう!」  
の様子



小中学生が描いた人権ポスターなどの  
展示も

